

コロナ禍その後

ながれ

竹内 翔 (たけうち しょう／元インターン生、会社員、福岡県糸島市在住)

今年になって、コロナ禍の制約もほぼ無くなり、長女が小学校に入学したり、私の身のまわりでもいくつか変化がありました。

1つ目かつ一番大きいのは、妻も仕事を再開した中、原則仕事をリモートで続けられること。リモートワークが容易でない業種・職種もあると思いますが、幸いなことに私の仕事は可能で、会社もそうした先進的な取組を積極的に取り入れる体制でした。これによって、子供の学校や幼稚園の行事に気軽に参加したり、子供が病気になった時など、ふとした時に子供の面倒を家で見たりできます。共働き世帯にとっては非常に大きなメリットであり、このような環境にいられることに感謝しています。一方、社会には、コロナ禍による社会的な制約が無くなったら、原則出勤しての業務に戻ったという例も多いと聞いていますので、ぜひ「リモートワークでできることはリモートワークで」が推進されると良いと思います。リモートワークは、従業員と会社との信頼関係に成り立っており、管理職の立場では難しい課題もあると思いますが、そこをなんとかせひ。

蛇足ですが、これに関連して、地方暮らしがもっと広がってほしいと思います。私も地方に住んでいる身として、そのメリット、特に子育て世代にとってのメリットは数知れません。海・山・川・畑など自然の遊び場が身近にある、美味しく新鮮なものが安価に手に入る、など。

2つ目は、様々な行事やイベントが解禁になったこと。コロナ禍を経て、少し形が変わっ

たものもありますが、人と人が交流できる行事やイベントが私は好きで、大事だと思っています。子供たちの学校生活も、リアルでのやり取りがあるから学ぶことも多いので、元に戻って良かったと思います。

3つ目は、海外も含めた行き来が再開されたこと。他人のフィルターではなく、自分の目・耳・頭を通じて、外の世界の空気に触れることには意味があると思います。先日仕事でドイツに行く機会を得て、私の業界(脱炭素)において世界でどのような議論がされているか垣間見ることができました。私が感じたのは、現時点では日本が圧倒的に遅れているわけではないこと、但し言語の問題もあり、日本と世界で情報分断されているため置いていかれかねないこと。この分野は、日本だけを見ていても解決されないため、良いものは輸入する、日本の方が良いと思ったものは輸出する、といった積極的な姿勢が大事だと考えています。

日本社会を考える上でも、高齢化社会で労働力不足の中で、海外との人材交流・技術交流は必要不可欠だと思います。世界では、若い世代が元気で、そうした風も取り入れたいと思っています。

最後に、世界を見ると、ウクライナのこと、台湾の今後など、心が重くなる 경우가多々ありますが、まずは、自分にできること、すなわち、自分の業界、住んでいる地域、そして自身及び身の回りの子供の教育に関する事など、できることからやっていきたいと思っています。